令和3年度 県立石岡商業高等学校自己評価表

目指す学校像	生徒の人格を重んじ、地域社会の要請に応えながら激しく変化する社会に柔軟に対応できる力を育むと共に、社会に有為な調和のとれた人間の育成に努める。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<p>コロナ禍のため、長期休校、学校の教育活動の大幅な変更や縮小などが続いたが可能な限りの対応をし、生徒職員ともによく頑張った。ITを活用した授業改善が大幅に進んだ。酒粕をいかした商品開発など、制限された環境の中で、実践的な授業も充実させよう工夫した。資格取得では、全商検定1級5種目以上合格など健闘した。上位資格取得率の更なる向上が望まれる。</p> <p>進路面では、進学・就職ともに学校幹旋希望者合格100%。コロナ禍が就職・進学に及ぼす影響が懸念されたが、綿密で丁寧な指導により、商業科の特長を活かした大学進学や金融機関等への就職で実績を残すことができた。各種ガイダンスや企業訪問・学校見学が中止となったが、オンライン等形態を工夫して実行した。今後もコロナ禍での進路指導の工夫、生徒の意識啓発のための工夫が求められる。</p> <p>生徒指導では、服装・頭髪・登校指導を定例で行い、基本的な生活習慣の確立に努めた。遅刻や問題行動は引き続き減少傾向だが、SNSの活用状況に課題が残る。SNSマナーの徹底と人間関係構築能力の育成が必要である。</p> <p>部活動では、大会の中止・縮小が続く中、少林寺拳法部の全国選抜大会出場、弓道部の県大会上位入賞はじめ、各部ともに感染症対策しながら、熱心に活動した。学校行事も中止が続く中、動画による桐商祭は生徒主体で熱心に取り組む姿が見られた。地域交流活動も、動画によるフューチャーセンターや市主催のイベントへなど可能な限り参加した。今後更に生徒個々の活躍の場を創出する取組が必要である。</p> <p>コロナ禍2年目、教育活動の充実に向け創意工夫が必要である。ITによる授業改善、新課程に応じた学びの編成も急務である。進路実現に向けた基礎学力の向上と規範意識の高揚を図り、生徒の自己充実感を高められる機会を創出することで、地域から信頼される明るい学校づくりに努めたい。まず、感染症対策の徹底、働き方改革など生徒・教職員の健康と安全に配慮した環境づくりが不可欠である。</p>	<p>1 授業の工夫・改善を図り、主体的に学習に取り組む態度と確かな学力を育む</p>	<p>①指導方法の工夫・改善を図り、基礎学力の向上を図る。</p> <p>②資格取得を通して実践的な学力を養成し、希望進路を実現する。</p> <p>③ITを活用した授業など、時代のニーズに応える授業を推進する。</p> <p>④「主体的・対話的で深い学び」のための指導の工夫・改善を行い、確かな学力を育む。</p>		
	<p>2 規範意識を醸成し、基本的な生活習慣を確立する</p>	<p>①様々な活動を通して、規範意識・社会性・思いやりの心を育てる。</p> <p>②面談や教育相談を活用し、生徒理解を深め、信頼関係を醸成する。</p>		
	<p>3 組織的・系統的なキャリア教育を推進する</p>	<p>①体系的なキャリア教育を推進し、進路意識の涵養と目標実現のための実践力を養う。</p> <p>②実習や体験的学習を通して、思いやりや社会性・人間関係構築能力を養う。</p>		
	<p>4 特別活動の充実を図り、豊かな心を育む</p>	<p>①特別活動を通して、心の居場所となる学級・学校づくりを推進する。</p> <p>②生徒会、部活動、ボランティア活動を活性化し、リーダーとなる人材を育成する。</p>		
	<p>5 地域や保護者から信頼される学校づくりを推進する</p>	<p>①中学校や地域との連携・交流活動を推進し、相互理解と協力関係の醸成に努める。</p> <p>②学校通信、ホームページや学校公開などを通して、積極的に情報を発信する。</p>		
	<p>6 安全で安心な教育環境づくりと、教職員の働き方改革を進める</p>	<p>①感染症対策はじめ、生徒、教職員の健康と安心安全に資する教育環境づくりを図る。</p> <p>②働き方についての教職員の意識改革を進める。</p> <p>③学校行事や業務を精選し、役割分担も含めた組織の見直しを図る。</p>		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
教科指導	基礎学力の向上を図る。	ICT教材の活用など計画的に課題等を与えることで、基礎・基本の徹底を図る。1-①		
	生徒の自主的学習意欲を喚起するとともに、商業検定試験の合格率向上を図る。	生徒の実態に応じた指導法の工夫・改善に努め、「参加する授業」を心がける。1-①		
	上級資格取得への意識の向上を図る。	各種検定試験にあわせて、課外等を計画的に実施し、すべての検定において前年度合格者数を超えるよう指導する。1-②		
	部活動の活性化と生徒会活動の充実を図る。	部活動の加入率を上げるとともに、生徒会活動を活性化させる。4-②		
特別活動	感染予防に配慮して、文化的・体育的学校の行事の充実を図る。	感染予防の工夫や配慮をしながら文化祭・クラスマッチ等を実施し、感性を育て、クラスの連帯意識を培う。4-①6-①		
	キャリアパスポートの充実をはかる。	定期的に自己の生き方や進路に対する見直しと振り返りを行うことで、新たな学習や生活への意欲につなげる。3-②		
	生徒の自発的活動の促進を図る。	生徒会活動及びホームルーム運営等で、生徒の自発的活動の促進を図り、適切な指導、援助を行う。4-①		
	基本的な生活習慣の確立	学校生活の場面で、我慢すること、辛抱する気持ちを育成していく。2-①		
生徒指導部	1. 頭髪・服装	生徒の人格、立場を認めた上で、粘り強く指導する。2-②		
	2. 遅刻	学校・生徒間、学校・保護者間の連絡を密にし、家庭での指導に協力してもらう。2-②		
	3. 礼儀	各カードを用意し、段階を揃っての指導で自覚を促していく。2-①		
	交通安全の徹底指導	登校指導表・頭髪チェック表・異装願い・遅刻調査を行い段階的に指導する。2-①		
	1. 原付バイク	体罰に頼らない指導を心がける。1-①		
	2. 自動二輪車	HRや集会、講演会などで年間を通して指導していく。2-①		
	3. 普通乗用車	年間指導計画を立てる。2-①		
	非行の未然防止	定期的な見回りや、地域との密接な連絡を図っていく。5-①		
	1. 喫煙	3年生第4回定期テスト終了後より自動車教習所を訪問し、情報交換を重ねる。5-①		
	2. 飲酒	日頃から生徒の様子をよく観察し、非行の兆しを見逃さないようにする。2-①		
	3. 無届アルバイト	問題行動が発覚した場合は、保護者と連絡を取り、生活習慣の改善を促していく。また、講演会を実施する。2-②		
	4. 無断外泊	アルバイトをする際は、必ず手続きをするように指導する。2-②		
※クラスマッチ・石岡祭礼	学校・生徒間、学校・保護者間の連絡を密にし、保護者を交えての指導を行う。2-②			
教育相談	早期の発見を心がけ、面接、家庭訪問、SCや県教育研修センター、外部医療機関と連携し対応に当たる。2-②			
1. 不登校	担任が一人で問題を抱え込むのではなく、学年、生徒指導部等、チームでの対応とし、段階的に指導していく。2-①			
2. 指導拒否				
3. 長期欠席				
4. いじめ				

進路指導部	進路について理解を深めさせ、能力・適性に合った進路を決定させる。	進路講話、ガイダンス等の開催、また進路情報の提供等を通して進路に対する考え方や態度を早期から養うとともに、関係機関との連携を強化し、社会情勢の変化による進路決定への影響を最小限に抑える。1-③3-①6-①		
	進学に対する啓発を図り、上級学校への進学を決定させる。	進学希望者に対して、基礎学力の向上を図るとともに志望校に応じた指導を行い、合格に結び付ける。また資格を生かした進学についての情報提供に努める。1-①②		
	労働の意義や目的を理解させ、正しい職業観・勤労観を確立させる。	就職希望者に対して、基礎学力や資格取得等の能力向上を図るとともに積極的に職場見学等の就職活動を行う指導し、就職内定に結び付ける。また面接指導の充実を図る。1-①②		

教 務	授業時間を確保する。	行事の実施日が特定曜日に偏らないように年間計画を立てる。 1-① 出張、年休時の授業交換を確実にを行い、授業時間の確保に努める。 1-①		
	充実した教育課程を編成する。	基礎科目に重点を置き、社会の変化と生徒の多様な進路に対応できる教育課程の編成に努める。 1-① 選択科目説明会を実施することで、生徒の希望に合った科目選択をサポートする。 3-①		
	広報活動の充実を図る。	本校教育活動の紹介を、ホームページにおける動画配信・広報紙等を利用し情報の提供に努める。 5-①② 生徒、保護者、地域の声を受け止め、開かれた学校づくりを推進しながら、情報提供を積極的に行なう。 5-①②		
	魅力ある教育環境づくりの推進。	1人1台端末とクラウドを活用した新たな学び、情報モラル教育に関する研修を積極的に行う。 1-③ 業務等の効率化を図るため、校務のICT化を推進し、働き方についての意識改革を進める。 6-②		
	心身ともに健康でたくましく生きることができる人間の育成をめざし、健康の保持増進に努める。	心身の健康状態の把握に努め、生徒が自主的に自分の健康を保持増進できるよう適切な指導・援助を行う。 2-①		
保健厚生	学年・担任との連携を図り、健康に問題のある生徒の指導と管理に努める。	学年との連携を図り、積極的に健康相談を実施する。 2-② 教育相談をカウンセラーと協力しながら充実させる。 2-②		
	地域と連携した、防火防災に対する心構えを身につける。	早い時期に避難経路を理解させる。地域と連携した実践が出来るようにする。 5-②		
	衛生環境を整え、感染症対策に努める。	朝の検温やアルコール消毒など、登校時の保健体制の取り組みを継続させる。 6-①② 全学年にマスクの着用・手洗い・うがいを励行させる。 6-①		
	授業等での利用拡大を図る。	各教科から生徒に薦める図書をあげてもらおう。 1-① 図書委員会を適宜に開催する。 4-②		
図 書 館	図書委員会活動の活性化に努める。	新着図書を「図書館だより」等で広報する。 1-①		
	図書館利用の振興と図書館行事の充実を図る。	現在保有の視聴覚機材・教材等のより一層の利用促進を図る。 1-①		
	視聴覚機材と教材の充実を図る。	各種行事への出席者を増やす方法・内容を充実させる。 PTA・後援会・同窓会との親睦を図るとともに、効率的な運用を目指す。 総会・支部総会・理事会・生徒指導委員会・広報研修委員会の見直しを図る。		
渉 外	PTA、後援会、同窓会との連絡を密にする。	各種行事への出席者を増やす方法・内容を充実させる。 PTA・後援会・同窓会との親睦を図るとともに、効率的な運用を目指す。		
	PTA活動の活性化を図る。	総会・支部総会・理事会・生徒指導委員会・広報研修委員会の見直しを図る。		
第 1 学 年	基本的な生活習慣の育成に努める。	高校生活が無事スタートできるよう、入学後オリエンテーションを実施する。 2-② 生徒の個人面談を年3回程度実施し、生徒理解に努めるとともに必要に応じて関係機関と協力し、健全な高校生活が送れるように支援する。 2-② 登校指導やHRにおいて挨拶の励行や、正しい言葉遣いやきちんとした制服着用の徹底を図る。 2-②		
	将来を考える態度を養い、早期の進路決定を促す。	頭髪・服装指導を徹底して行い、身だしなみを整えさせる。 2-① 3-① 進路ガイダンスを実施し、進路に関する意識の高揚を図る。 3-① HRや個人面談を通じて自分の将来を考えさせるとともに、その実現に向けて、部活動の参加や資格取得への取り組みを促すなど学校生活の充実を図る。 3-①		
	学習指導の充実を図る。	教科担任と連携し、授業態度や課外への出席状況など生徒の実態把握に努める。 1-① ICT教材による基礎学力の更なる向上に努める。 1-① 1-②		
	将来を見据え、豊かな人間関係性を育む。	学校行事を通じて協調性を大切にする心を育てる。 2-① LHRや総合的な学習の時間（道徳）を通じて、他人を思いやる心の育成に努める。 2-①		
	規律ある生活態度を身につけさせる。	登校指導やHRにおいて挨拶の励行や、正しい言葉遣いの徹底を図る。 2-② 集会や遅刻指導等で、時間を守る習慣を身につけさせる。 2-② 服装・頭髪をきちんとさせる。 2-② 清掃を徹底し、生活環境の美化に努め、感染症予防に努める。 2-② 6-①		
第 2 学 年	進路実現に向けての目標を明確にさせる。	進路ガイダンス・インターンシップ等の様々な機会を通して、進路に対する意識の高揚を図る。 3-② HRや個人面談等で進路目標の早期決定に向けての指導にあたる。 3-② 進路希望の実現に向けて、上級資格取得の推進を図る。 3-②		
	学習指導の充実を図る。	教科担任と連携しながら、授業を大切に、真剣に取り組む姿勢を育てる。 1-① スタディサプリやクラスルームなどのICTを活用し、基礎学力の向上に努める。 1-① 検定試験に向けての課外授業等に積極的に参加させ、上級資格取得を目指す。 1-①		
	自他を大切に、豊かな心を育てる。	LHRや修学旅行等を通して、他人を思いやる心の育成に努める。 2-① 清掃・HR等を通じて、物を大切にする心を育てる。 2-① HRや集会等を通して、SNSの利用方法や社会マナー、交通ルール等を身につかせ、豊かな心の教育に努める。 2-①		
	規律ある生活態度を育成する。	服装・頭髪指導の徹底を図る。 2-② 挨拶・正しい言葉遣いを励行する。 2-② 時間厳守・清掃の奨励を図る。 2-②		
第 3 学 年	進路指導の充実を図り、希望進路の実現を目指す。	HRや個人面談等で進路意識の高揚を図り、進路目標の早期決定及び希望進路の実現に向けて指導にあたる。 3-② 就職や進学試験における面接や作文、適性検査への対応を図る。 3-②		
	学習指導の充実を図る。	日々の授業やICT教材を活用し、基礎学力の向上を図る。 1-① 上級検定資格取得に向け、積極的に取り組ませる。 1-②		
	心の教育の推進を図る。	特別活動を通して、自他を大切に、他人を思いやる豊かな心の教育に努める。 2-① 5-① HRや学年集会を通して、社会マナーや交通ルールを身につかせ、その重要性を理解させる。 2-①		
	規律ある生活態度を育成する。	服装・頭髪指導の徹底を図る。 2-② 挨拶・正しい言葉遣いを励行する。 2-② 時間厳守・清掃の奨励を図る。 2-②		

教	国語	基礎学力の向上を図る。	漢字力・語彙力の向上を図り、実社会に必要な知識や技能を身に付けさせる。1-① 机間指導等によるきめ細やかな指導を行い、その成果と課題を明確にし、次年度への改善策を検討する。1-① 自宅での課題に取り組みさせることで、学習習慣の定着を図る。1-①		
		読書力を伸ばし、読書の習慣化を図る。	授業で扱った教材に関連する本を紹介する。1-① 指導者自身の読書体験を紹介する。1-① 図書館の利用を促す。1-①		
		生徒が理解しやすい授業への改善に努める。	授業内容、方法、進度等について教科内で研究協議する。1-① ITを効果的に活用し、生徒の理解を深める。1-③		
	歴史公民	興味・関心を高め、学習意欲を向上させる授業の展開。	生徒の実態に即した教材の精選を行い、諸資料を活用したわかりやすい授業を展開し、学習意欲を高める。1-① 時事問題や日常生活の身近な事項も教材として扱い、興味・関心を高める。1-①		
		自ら学ぶ意欲を高め、理解を深める授業の工夫。	自ら調べ、問題を解決する能力を高めるために、グループ学習やペア学習などを定期的に取り入れる。 1-① 理解度を確認するため、ノートおよび学習ノート、プリントの提出を実施する。1-①		
	数学	常により良い授業への改善に努める。	授業目標に沿った授業計画を毎時間たてる。1-① 授業終了後に指導内容を点検し、気が付いた点を記録する。1-① 定期的に、実践した授業の成果を含めて見直し、報告し合う。1-①		
		基礎学力定着とその向上に努める。	教授法の改善を図る意味で、例題の扱い方や、取り扱う問題の精選のために、実践した授業への生徒の反応を確認し、評価し合う。1-①		
		「主体的・対話的で深い学び」のための指導の工夫に努める	生徒同士で意見を交換したり、教えあったりすることで問題解決する姿勢を身に付けさせる。そのための、指導法について自己研鑽に努める。1-③		
	理科	基礎学力の向上を図る。	普段の授業を大切に、理解度の確認のため、ノート・ワーク等の提出を行う。1-① 指導内容を自然現象や生活体験に関連付けして、興味や関心を深め、理解度を高める。1-①		
		授業の改善に努める。	実験・観察、演習などの教材研究をすすめる、教科内で情報交換を行う。2-① 教員主体ではなく、生徒主体となる授業を展開する。1-③ IT、視聴覚教材、副教材や演習を利用して生徒の興味関心を引き出し、学習意欲を喚起する。1-①		
	保健体育	生涯を通じて継続的に運動が出来る資質や能力を育てる。	個々の生徒の能力や実態の把握に努め、生徒一人一人に応じた指導を工夫する。また、自ら体調を整え体力を高めることが出来る主体性の育成に努める。1-①		
		健康・安全・環境への意識の向上。	ヘルスプロモーションの観点から、自ら適切な生活行動を選択・実践できるような健康への意識の向上と環境への配慮をし、改善していく努力が必要であることを理解させる。2-① 健康的な生活習慣が実践できるように意識を高めていく。2-①		
芸術	興味・関心を高め、学習意欲を高める授業。	興味を持つ題材の設定と教材の研究を重ねる。1-① 生徒が自ら創意工夫できる指導法の工夫。1-③ 生徒の実態に合った目標設定内容の工夫をする。1-①			
	生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成。	鑑賞の時間を通し、日本、諸外国の文化を知り、芸術に関わる喜びを味わう。2-①			
英語	基礎学力の向上を図る。	単語テストや小テストをこまめに実施し、就職・進学に向けての基礎学力を身につけさせる。1-①			
	分かる喜びを実感する授業実践に努める。	2・3学年の選択授業を通して、実践的な英語力を養成する。1-① 各担当者が授業内容や方法等について研究協議し、授業に生かして行く。1-① 各種研修会に積極的に参加する。1-①			
	興味・関心を高める。	A L Tとのチーム・ティーチングが全クラスでできるよう計画を立て、英語への興味・関心を引き出し意欲的に取り組ませる。1-①			
家庭	基礎的な知識・技術の習得。	体験活動や実験・実習をととして、基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、実践的な態度の育成を図る。3-②			
	生徒の実態に応じた指導。	生徒の実態に応じて視聴覚教材の活用などにより個別指導を充実させ、生徒個々の生活の向上を図る。1-①			
商業	授業内容の充実。	生徒の実態に応じた指導法・教材の工夫。1-① 科目担当者間での進捗調整や授業内容等の情報交換。1-① ICT教材を効果的に活用した授業を実践し、基礎・基本の徹底を図る。1-①			
	基礎科目の知識定着および検定試験合格率の向上。	基礎・基本を徹底して習得させる指導法の工夫。1-① 生徒の実態に応じた課外等の実施。1-② 年間を通しての計画的な課外等の実施。1-②			
	上級資格取得の奨励。	習熟度に応じた指導法の工夫及び課外等の実施。1-②			
	出前授業の効果的実施。	近隣中学校を対象とした出前授業の効果的実施。5-①、②			

※評価基準：A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない